



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2018年(平成30年)10月25日号 No.1774

目次

■ 2018年初秋のモスクワ訪問記	坂口 泉 1
■ 『ロシアNIS調査月報』2018年11月号のご紹介	7
■ トピックス	8
パナソニックが植物工場研究でロシアと協力／8	
ガスプロムネフチ、国内の産油制限せず／8	

2018年初秋のモスクワ訪問記

ロシアNIS経済研究所 嘱託研究員
坂口 泉

はじめに

2018年9月23～29日まで筆者は2年ぶりにモスクワを訪れた。完全なプライベート旅行で、モスクワをあてもなくぶらぶらするつもりだった。カローメンスカヤの蜂蜜市や、見本市事業に携わっていた頃によく訪れていたヴェルニサージュ市場に行こうと思っていた。また、ゴーリキーパークを散策したことも思っていた。ところが、日頃の行いが悪いせいか生憎の雨続きで、それらの希望はすべてかなわなかった。しかし、そのかわりに、障害者雇用企業「エレクトロ」を訪問するという予期せぬ幸運に恵まれたほか、日本では滅多に見かけることのない韓国メーカーの車を心ゆくまで観察することもできた。また、見本市事業を担当していた時の仲間と旧交を温めることもできた。結果的には、英気を養うに十分な充実した旅となった。本稿では、今回の旅で特に印象に残った出会いや、何気ない風景の中で感じたことなどを、筆のおもむくままに記してみた。

初JAL

今回は仕事ではなくプライベートでのモスクワ訪問だったので、思い切ってJALのビジネスクラスを利用させていただいた。モスクワにはこれまで30回以上は行っていると思うが、JALを利用するのはこれが初めてであった。私の席は行きも、帰りも通路側の2Cであったが、隣の席との間には仕切りがあり(電動で上下に動く形になっているが、離陸時と着陸時にのみ降ろされる)、プライベート空間が確保されていた。また、椅子を倒せば完全フラットになるように設計されており、完璧に近い心地よさであった。食事は行きも帰りも和食をオーダーしたが、とても美味しく、通常機内では食べる量を控えることにしている私でも思わず完食してしまった。メインの食事の後、到着1時間半前のラストオーダーまでの間に(帰りは、ちょうど日本を襲っていた台風の影響で2時間半前に設定されたが、通常は